

図書館利用者と大泉図書館長との懇談会

- 1 日時 平成30年10月27日（土） 10時～11時30分
- 2 場所 大泉図書館 2階 視聴覚室
- 3 参加者 利用者 16名
図書館 5名（大泉図書館長、館長代理2名、学校総括支援員、書記）
- 4 テーマ 「地域とのつながりから大泉図書館を考える」
- 5 配布資料 (1) 「練馬区立図書館ビジョン」（概要版）
(2) 「大泉図書館の事業を紹介します!」
(3) 地域資料「となりの神様」
(4) 地域資料「団体利用体験レポート」
- 6 次第 (1) 大泉図書館長挨拶
(2) 図書館職員紹介
(3) 事業紹介
(4) 懇談

図書館利用者と大泉図書館長との懇談会 会議録

1 大泉図書館長挨拶

それでは定刻となりましたので、はじめさせていただきますと思います。

これから「練馬区立大泉図書館 平成30年度 図書館利用者と館長との懇談会」を開会いたします。あらためまして、本日はご来館いただきまして、誠にありがとうございます。大泉図書館は、平成24年度から指定管理者として運営してきましたが、平成30年度は指定管理2期目の2年目となりました。

さて本日の懇談会ですが、お手元にお配りした「練馬区立図書館ビジョン」を踏まえた上で、前年度の利用者懇談会以降から今年度実施いたしました事業からピックアップしてご報告いたします。

後半は、本日までご出席いただきました地域のみなさま、図書館を利用されている団体のみなさま、近隣施設の方々からご意見をいただく時間とさせていただきます。

今年度のテーマは「地域とのつながりから大泉図書館を考える」といたしました。11時30分までの短い時間ではございますが、最後までよろしくお願い申し上げます。

2 図書館職員紹介

館長代理 2 名、学校総括支援員

3 図書館概要説明

「練馬区立図書館ビジョン」を踏まえて、「大泉図書館の事業を紹介します!」と題した参考資料をもとに、昨年度の利用者懇談会以降に実施した事業のうち、今年度のテーマに関係がある「地域とのつながり」をキーワードにした事業を紹介。

また、地域担当がまとめた近隣の神社についての資料「となりの神様」と大泉図書館を利用されている団体の活動を自ら体験した「大泉図書館利用団体体験レポート」について報告を行った。

4 懇談会

利用者 藤沢周平と大泉の会です。こんなにいろいろやってらっしゃる事業をですね、具体的に知らせる方法というか、どんなメディアでおやりになっているのか、全部、それぞれ使っていらっしゃるのですか。例えば白子川とかいろいろやっていらっしゃるようですけれど、どういう形でこれを行っていることを周辺ないしは区民に知らせているか、それがひとつと、学校図書館とのお付き合いがあるようですが、具体的に学校に図書館がありますが、僕たちも卒業してだいぶ間が空いているので、どういうお付き合いをなさっているのかあわせて伺いたい。

図書館 事業の報告については私からお話します。学校については学校総括支援員から、お話します。

まず行った事業の周知ですが、一番大きいものとしては練馬区立図書館のホームページがございます。それと、先程の「白子川訪問記」は2階にあがってくる階段の壁面を使って川活動の様子などをご紹介します。

利用者 ホームページはどこからアクセスすれば出てくるんですか。

図書館 練馬区立図書館のホームページにアクセスしていただくと、各図書館の名前が一覧で出てきます。その中で大泉図書館のところをクリックしていただくと、大泉図書館の情報が出てきます。そこに実施した事業およびこれから行う事業の告知が載っています。

利用者 大泉図書館だけでクリックしても出てきますか。

図書館 練馬区立図書館全体でホームページがありますので、その中から選択していただければと思います。それと、今日お配りしているものと同じものが1階のいちばん庭園に近いところでパネル展示してありますので、今日参加されていない方にも見ていただけるようになっています。

利用者 今のところお聞きしたのはホームページですが、それだけということですか。

図書館 メディアでは。インターネット上ですと、練馬区立図書館のホームページのみです。SNSは他には使っていません。

利用者 例えばペーパーなんかはどうなんですか。

利用者 いわゆるホームページを開かない人もこの中に何人かいるんじゃないですか。みんなほとんど開くのかな。

図書館 そういったご意見を以前いただきまして、それで、当館で行った事業を地域資料コーナーでご覧いただくということで始まりまして、現在そちらで掲示しています。

利用者 例えばこの事業のいくつか、随分やってらっしゃると思うんだけど、私が知っているのは2つしかない。だから、どこでどういう形でそれを知るのかなと。例えば興味のあるものを何らかの形で媒体を作り上げるか、何か違う形でやっていることを知らせる何か手立てがないのかな。

図書館 そういったご意見もいただきまして、今年度行っていることとしては、告知のメディアがなかなか限られているので、町会掲示板を使ったりもしたのですが、こちらはなかなか場所取りが難しく、コンスタントにはちょっとできていない状況があります。それ以外に、近隣の郵便局にチラシを持ち込んでいることと、お店にチラシを置かせていただいたりする取り組みも行っています。なかなか告知をすることがうまくできていないなど実感していますので、引き続きいろいろ媒体等も含めて模索していきたいと思っています。

図書館 区報に載せる事もあるんですが、練馬区では図書館が12館ございまして、それぞれに事業を行っているので、区報に載せられる数にも限りがございます。それと、区報に載せる時には、ある程度の決まりごとがあつて、それに沿つて広報をしているところもありますので、全て載せられるわけではない、というところです。

利用者 楽しい事業があるからね、他に知らせてもいいんじゃないのかなと思ってね。ありがとうございます。

図書館 学校について、私からお話しします。大泉図書館からは学校支援モデル事業として、小学校8校と中学校5校、区立の学校に訪問支援しています。1日6時間、年間100日訪問しています。

各学校への訪問内容としては、日常的な貸出返却をはじめとして、蔵書の管理、選書の支援や除籍の支援なども行っていますし、授業での支援もしています。図書便りなどの広報物もこちらで作らせていただくことが多いです。また、職場体験や団体貸出それから図書館見学也大泉図書館で対応しています。

先ほどご紹介いたしました特別支援学校は、都立になりますので、日常的に訪問支援することはございませんが、おはなし会を行ったり、図書館見学を受け入れています。

利用者 具体的に、図書館は、図書館員っていう管理体制が整っているのか、それとも司書がきちんといるとか、窓口はどういう形になっていますか。

図書館 担当支援員が大泉図書館のスタッフとしての立場で、それぞれの学校に年間100日伺っています。

利用者 学校側はどういう方が担当ですか。例えば小学校の図書館とかは。

図書館 学校側には、図書担当の先生がいらっしゃいます。図書館から図書室に支援員が伺っていて、月木にお伺いする学校、火金にお伺いする学校、というようにそれぞれ100日伺っています。

利用者 何時から何時までやっているんですか。

図書館 小学校は8時30分から15時15分まで、中学校は10時15分から17時までです。

利用者 子供たちは、中で授業が終わった後とかどのように使っているのか、けっこ

う借りられていて熱心に参加しているんですか。

図書館 はい。小学校は例えば月曜日 1 時間目が 1 年 1 組、2 時間目が 2 年 3 組というように、図書室利用の時間割があり、ほとんど授業で図書室が埋まっている状態です。支援員はその中で貸出返却もしますが、よみきかせをしたり、時にはブックトークをしたりして、授業の内容に合わせて支援をしています。

利用者 なるほど。それと、我々一般人の学校図書館利用についてはどうなっていますか。

図書館 こちらは学校ごとに違いますが、図書館開放などがございますのでその時間に地域の方が運営されているかと思います。

利用者 大泉が支援されているところで、この近くで行ける学校ってどこですか。

図書館 放課後の時間とかお休みの日でしょうか。

利用者 放課後とか。図書館ではなく学校に行って貸出を受けたりできるのは、この近くではどこですか。

図書館 どなたがお借りになれるかというのは、図書館開放の方がやっていらっしゃるのです、詳細を把握していませんが、図書館開放自体がありますのは、大泉第三小学校などです。

利用者 学校ですので、児童書とかヤングアダルトぐらいまでの本が多いですね。開放図書っていうのが随分前からあるんですね。

図書館 大泉西小学校、桜学園、大泉北小学校などで開放されていると思いますが、その中でどなたでも、というように間口を広げていらっしゃるのか、地域の方に限るかというところは図書館ではわかりかねます。

利用者 図書館はけっこう学校との連携が取れているわけですね。

図書館 はい。大泉図書館から学校の図書館へは日常的に関わっています。

利用者 はい。分かりました。

図書館 学校図書館に入っている人については、いろんな種類の方がいらっしゃいます。ボランティアの方もそうですし、学校支援員だけでなく、管理員といった違う役割の人々もいらっしゃいます。学校支援員のもっとも大きな特長としては、授業支援を行うことにあると思います。

利用者 そういう連携をやってらっしゃるのかなと思ったの。本の貸出とかじゃなくてね。

図書館 学校支援モデル事業を7年やっておりますので、本来の業務だけでなく、その中から生まれた良い副産物として、学校の子供たちが図書館により親しみを持って来やすくなっているということと、本友(ブックフレンズ)委員会のように、中学生が自主的に集まって自分たちで大泉図書館の青少年コーナーを良くしようという活動をしていて、テーマを決めて展示をしたり、本友通信の作成や、イベントそのものを自分たちで企画運営することで自主性を大切にしています。

本友(ブックフレンズ)委員会ができたことで、そのさらに下の年代の、小学校に入って中学校に入るまでの子たちを集めた本友キッズクラブという集まりがありまして、ここも少しずつ発展してきています。今まで学校に上がってしまうと、それまでよみきかせに来ていた子たちがいなくなってしまうという状況を何とかしたくてやってきたところもあります。学校図書館に支援員が行ったことで、そのあたりが少しずつ埋まってきたかなというところでは。

図書館 ほかにご質問、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

利用者 夏目漱石を読む練馬読書会のものです。私は3つぐらいお話をさせていただきたいのと、またお尋ねをしたいんですが。まずですね、今日資料の中に入っておりますこの「練馬区立図書館ビジョン」ですね、これが平成25年にできまして今年で5年目になる。これは10年計画で作ったものですが、5年経ったら中間的にいろいろ見直しをして、検討するという事だったのですが、あと5か月ぐらいでもう5年目が終わってしまう。これは何か行政でとばすこともないだろうし、どうなっているのかということのを来月の10日に私が一番に発言しようと思っています。こういうことはあってはならないと思っているのですが、皆さんはどうお考えでしょうか。

利用者 何がなくなるんですか。

利用者 ビジョンの見直しですよ。見直しっていうか検討ですね。それであとの5年を見直すということであったんです。これは、平成25年当時の光が丘図書館館長の時にそれを決めたんです。それがやっていない。そこが非常に私にはどうも理解ができない。あなた方はどういうふうに思っただろうのかまあ感想を聞ければと思って。

先月この部屋で講演をやったんですね。それで、地域の皆さんにいろいろ新しい場所にもお願いしてチラシを扱っていただきまして大変助かりました。その際に新しい発見がありました。私どもは練馬読書会ですし、ほうぼうからたくさん来ていますので、練馬を一つの地域と考えております。そんなわけで、地域にどうやって我々の行事というか活動を知らしめたらよいのか、そういうことに非常に苦慮しているんです。皆さんのご活動を見てもいろいろあると思いますので、2番目にお聞きしたいのは、ここにいらっしゃるいろいろな方に、どういうことをやればいいのかということを伺いたいと思いますが、訪問するわけにもいかないし、そういう話し合いみたいのがあればいいと思っているんです。そういう時に私どもは会報も出しておりまして、そういうものを差しあげてこんなことをやっているんだということもお伝えしたりと、団体が同じところを使っているんですから話し合いぐらいできたらいかなものかと、こういう提案をしたい。

利用者 何がしたいですか。話ですか。いろんな会と一緒に話をしたいのですか。

利用者 そうですね。連絡会のような、軽いのでいいんです。格式ばらなくて。

利用者 今回どんな新しい発見があったんですか。

利用者 今まで行ったこともない、例えば高校ですね、大泉高校とかそれから桜高校とかありますけどね、こういうところへ行ってチラシをお願いした。そうすると、非常にフレンドリーですね、受け取ってじゃあこれを貼っておきましょうと。今まであんまり関係がなかったところに行きました。それでやはり活動をしていく中で、仲間を作りたいと思うんですね。もうこれで何かを作ろうと言うのは2回目、3回目だと思うんですよね。館長よくご存じでしょうけど。どうですか皆さん、同じところに生まれてきて同じ地域に住んで、同じ地域をよくしませんか。私どもの活動として地域外にも例えば漱石山房というのが新宿にありまして、他のところとも関係がありまして、漱石山房に協力をして私どもの名前も貼りつけてあるんです。資料も手紙なんかもやたらにここのところ5、6通くれたんですけど、そういう、他のところはわりと連携できるんですけれども、地域が全然、どういうふうな横の関係を作ればいいのかとよくわからないんです。皆さんはどう思われているのか、こういう話し合いをさせていただければと思います。

図書館 「練馬区立図書館ビジョン」、10年計画で今5年なのになんてなっているんだろうというお話については、光が丘図書館にお尋ねになるということなので、私たちといたしましては、「練馬区立図書館ビジョン」の中に大きい柱があって、項目別の取り組みや具体的な施策が書かれていますので、このビジョンができた時にこれに沿ってひとつひとつの事業を進めていこうと考えて運営をしています。私たちの立場では、これをもとに一步ずつ進めていくしかないですし、少なくともビジョンに沿って進めてまいりました。夏目漱石を読む練馬読書会さんが今年度の光が丘での懇談会の時に5年を迎えてどうなっているんだということとはご質問いただくということで、よいですね。

利用者 我々が一生懸命作ったビジョンなんです。それが、5年たっても何も点数とか、訂正とかつけてないんですね。

利用者 何がつけてないのですか。

利用者 だから、5年たって見直しを検討するということを決めたんですよ。それがあともう5か月で終わりなんです。5か年経ってしまう。

図書館 その見直しについては光が丘図書館でご質問いただきましたら回答があると思います。

利用者 前から言っているんですよ、光が丘図書館の館長さんには。

利用者 大泉ではこの通りやるってこのカリキュラムでやる、夏目漱石を読む練馬読書会さんが言っているのは一般的なことだから、大泉ではがんばっていますってというようなことで、そういうふうなお答えしかないんじゃない。

図書館 私たちの立場としては、このビジョンに基づいて運営をしていくというところなので、その通りです。

利用者 そのトータルのなところで夏目漱石を読む練馬読書会さんにがんばっていただいて、今言ってもらえることをきちっと。

利用者 私もよりよき図書館を作る会でもう10年以上やっています。

利用者 いいんじゃないんですか。それで。

利用者 そうというのが地域でできていいんじゃないかと言っているんです。

図書館 もう1点の、大泉図書館を使っているいろんな団体が活動していて夏目漱石を読む練馬読書会さんが講演会をやられた時に、いろいろどうやって講演会の告知をしていくとか悩まれて、できる限りのお知恵を貸しましたし、逆に夏

目漱石を読む練馬読書会さんたちから私たちが学ぶこともありました。同じように図書館で事業をやっていく時に、どうやって来てほしい人にその情報を伝えるかがなかなか難しくて、今まで使ってよい手段が限られていたのですごく悩んでいたところだったんですが、今回夏目漱石を読む練馬読書会さんたちが新聞に折り込みをされていましたよね。そういったことを全然考えていなかったのが驚きました。

利用者 会の宣伝を新聞に折り込まれたのですか。

図書館 その講演会のチラシです。

利用者 新聞に折り込んだんですか。すごいことやるんだな。

図書館 新聞に折り込んで入れていただいたんですよ。その方法はお金がかかるだろうと思って今まで手をつけていなかったのですが、実はそこまでのお金はかからないということを私たちは知らなかったのも、逆に一緒にやってみて、そういうことがわかって発見がありました。なので、たぶん夏目漱石を読む練馬読書会さんがおっしゃりたいのは、同じように皆さん自分たちの会の活動を広報したいとか、自分たちがやったことをみんなに知ってもらいたいという思いがあるのなら、せっかく大泉図書館を使って活動しているから、活動しているみんなで知恵を出し合うような場があったらいいんじゃないかなってことだと思います。

利用者 今、漱石の会は何名ぐらいで大泉でやってらっしゃるんですか。

利用者 2つやっているんで全部で23人くらいですか。

利用者 けっこう多いじゃないですか。

利用者 いやこれは半分ですよ。ここは50人くらい入るんですよ。

利用者 読書会でしょ。読書会じゃなくて研究会かなんかなさっているわけですよ。25人いたらたいしたものですよ。

利用者 たいしたものではないですよ。

利用者 漱石を語るのは大変ですよ。

図書館 図書館の中には団体の方の活動を告知する掲示板を作ったんですけども、それはあくまでも図書館に来る人には見ていただけるのですが、来館される人以外にも見てほしいですよ。

利用者 ちょっと見にくいですよ、あそこは。

- 図書館 掲示板を設置するところがあの場所しかなくて申し訳ございません。
- 図書館 夏目漱石を読む練馬読書会さんからご提案いただいたお話ですが、大泉図書館を使っていらっしゃる団体の方たちで何か話し合い、連絡会のような会を作るというのは現実的にいかがでしょうか。何か知恵を出し合う会みたいな、そういうものはどうでしょうか。
- 利用者 翔の会っていう短歌の会をやっている者ですが、私は平成10年からはじめて、70代ぐらいの主婦ばかりで出たり入ったりはしながらも8人ぐらいはずっといて、広めたいとは思っていません、申し訳ないですが。場所を貸していただけるのでありがたいと思って、勉強させていただいているだけで。すごく消極的にほそぼそとやっていますので、広めたい気持ちがないものですから。
- 利用者 私は練馬の文化が発展するように、広めたいと思っております。
- 図書館 それぞれの団体の方はこういったところで集まれば、他の団体もあるというのがわかると思うんですが、なかなかそれが一堂に会することがないので、よろしければ、それぞれの団体の方宛に今のご提案の内容をふまえて、こんな会があったら参加したいですかとか、どれくらいの頻度でやったらいいですかとか、そういうアンケートを一度やってみましょうか。それで、その結果でまたご相談させていただければと思います。
- 利用者 そういう会をやったらいかがですかっていうことが今日出たので、皆さんいかがですか。何かご意見があったら図書館の方に、ということで。
- 図書館 そういうアンケートを皆さんがお部屋を利用される時にお配りして、やってみましょうか。
- 利用者 ありがとうございます。
- 図書館 それでまた皆さんのご意見があがってきたらお伝えして、その後相談してというようにやっていければと思います。
- 利用者 今大泉でお付き合いなさっている団体はどれくらいあるんですか。
- 図書館 登録されている方はけっこうあるんですけど、活動をしているというところの中の20団体くらいですね。ただ、継続的に使ってらっしゃるところは若干少ないと思います。また、読書に関する利用以外で、例えばマンションの管理組合の会合のように、読書活動とは関係ないことで使っている方もいらっしゃいますので、すべてがというわけではないですね。あとは、町内会の防

災関係の会合をするのに使うとかといったことで場所をお貸しているという場合もあります。

図書館 とりあえずアンケートをやってみましょうね。アンケートを実施して皆さんのご意見を聞いて進めていければと思います。

利用者 ありがとうございました。

図書館 では他にございますか。

利用者 いくつか伺いたいんですが、僕は図書館は地域の中で重要な役割だなと今日も伺っていて思ったんですが、まずひとつが学校図書館との関係ということ。でさっきお話があって、去年ももしかしたら言ったかなと思うんですが、不登校がすごく学校の中で多くなっているっていう話があって、中学校なんて1クラスでひとりくらいが学校に行けない、それで、児童館とか図書館の役割がすごく大きいって言われていますよね。他の地域では、もし学校に夏休みの後行けなかったら図書館に居場所があるというような形でイベントなどをなさっていて、本当にそういう居場所づくりという意味も持っているのかなと思ったのですが、例えば大泉図書館でそういった取り組みっていうのはできるのかなっていうのがまずひとつと、あとこれは地域の方からいただく要望でよくあるんですが、すごくこの図書館ってすばらしい図書館で、その一つがお庭がとてもすばらしいっていうのがあって、例えば、庭にもう少し出られるようにできないか、よくいただくご相談としては、なかなかお昼を食べる場所がなくて、もし可能なら、庭で食べたりするのは難しいかなとか、使い方についてがひとつと、あともうひとつが、これも要望としていくつかいただいたのが、夏場でも温かい飲み物を販売していただけないか、時々、図書館の中にずっといると寒いから夏でも温かい飲み物があつたらいいなあみたいなご要望をいただいたんですが、そういうことってできるのかという、この3点を教えていただけたらと。

図書館 広い意味で居場所づくりという点では、そのような課題を意識して事業を行っていかうと思っていますが、ピンポイントでおっしゃったような不登校の方たちに向けたものというのは、なかなか難しいところがあります。

利用者 専門知識もいるでしょうね。

図書館 大勢の子供たちに来てもらえるような、図書館の敷居が低く感じられるよう

な事業は当然していますし、しようと考えています。

図書館 先ほどご紹介しました本友(ブックフレンズ)委員会は、中高生の活動の場となっていますが、学校を通して募集をしているので、活動の報告をしています。私たちは学校で子供たちがどういう活動をしていて、ふだんどんな様子かというのはわからないのですが、図書館では元気にいきいきと活動しているので、ある意味居場所が作れているのかなと思っています。

図書館 庭園の件ですが、庭園も図書館の閲覧席の一部と位置づけしておりますので、外に出て飲食するのはなかなか難しく、ゴミはどうするのかといった問題もあります。それとともに、この地域は外で過ごすのに快適な時期というのがなかなかなくて、暑すぎることが多いです。庭園の高木剪定も行って、丁寧に管理していますが、蚊の発生や、毛虫が出たりすることもある、その都度対応していても、衛生上あまりよくないこともあり、難しい部分があります。ただ、せっかくの庭園なので、庭園を読書に活かした取り組みは実施しています。例えば2階の庭園では庭園おはなし会というのを4月に実施していますし、1階の庭園にはいろんな樹木があつて鳥が来たり花が咲いたりしますので、自然観察のような事業を実施しています。

飲み物の件ですが、自動販売機の業者が入っていますので、業者への要望としてあげることはできるかと思います。今年は夏が終わってしまいましたが、来年に向けてそういう要望があることを伝えてみます。

利用者 ありがとうございました。

図書館 ほかにご質問などある方はいらっしゃいますか。

利用者 私は、大泉図書館で月に一度おはなしをしております。語りの方です、絵本の読み聞かせではなくて、素話です。それから大泉図書館ができる2年くらい前から大泉に地域図書館をつくる会というのを立ち上げて、その時に若山憲さんが代表になってくださって、活動していました。その時に世界の絵本を見る会というのをしてくださしまして、1年間まだ翻訳されていない絵本とかいろいろ見せていただいたんですね。その会を引き継いで絵本の会をやっております。そこで使う本をあるテーマで集めたり、人で集めたりするんですが、本を集めるのもこの図書館に協力いただいています。大泉図書館とのつながりは非常に深いつもりでおりますし、それから地域図書館が欲しい

という願いで建設に持っていけましたので、随分地域図書館として活動をしてくださっているなということは思っております。それから夏目漱石を読む練馬読書会さんがおっしゃいましたこと、本当はあと10歳若かったら大泉図書館をよくする会というようなのを立ち上げたいと思っております。といいますのは、私の意識の中でも、図書館が区の職員だった時は問題をぼんぼんぶつけたんです、直接。でも、指定管理になってしまうと、ぶつけてもここ止まりだなっていう意識があってどこまでどうしていいんだろうっていうのがあるんです。

例えば、子供の本、その本読むんだったらこっちじゃないの。とかいろいろなこと、ないことはないんです。図書館の方も私たちがしていることについて、いろいろそうじゃないのではというのがあると思うんですけど、それを、区の職員だった時は直接ぶつけて本来図書館っていうのはこうあるべきじゃないかっていうのを常に話し合っていたんですね。それが、今、話しにくいし、しても困られるんじゃないかとかここ止まりじゃないかとかそういう意識がありますのでね、夏目漱石を読む練馬読書会さんが言われたような会を立ち上げられればいいんだなって思うんですけど、私もあと半年ほどで80歳になりますので、ちょっとそういうことができかねるんですね。広報の問題は本当に難しいです。私、おはなしの会っていうところで年に2回一般の方向けのおはなし会をしているんですけど、それは広報が本当に難しいですし、それから17、8年前からでしょうか、図書館と協働しまして、本の探検ラリーといって、本をテーマごとに集めてそれで子供たちが本に出合うきっかけになるような事業をしているんですね。それも図書館でする時は広報が非常に難しいです。それで、各学校にも出前で持って行ってやっていますが、図書館でするときは、例えばチラシを作ります、それから区報にも載せます。その地域の学校には小さなチラシを配っていただいたりします。それでも参加する方って少ないんで、本当に広報って難しいです。図書館に興味のある方でしたらちょっと図書館に来れば、いろいろ資料がありますし、カウンターには事業のチラシを置いてありますのでね。

それともう一つ申し上げたいのは、今の子供たちの状況なんですね、大泉図書館は利用者懇談会でこれだけの方が集まって、本当に毎回いいなと思う

んですけども、もう一つ行っていますある図書館では、利用者懇談会 2 人とか、そんな状況だったりするんですね。住宅地の真ん中だったりして子供たちも来ないような。子供たちが図書館に来なくなっているっていうのがあると思います。それはね、ひろばというんでしょうか、そういう制度が始まりましてね、子供たちの放課後の居場所としては、家庭とかそれから児童館とか、学童クラブですね。そんなだったのが今、ひろばができたら、今児童館に来る子供たちの数が減っているんです。4 時になっても 4 時半になってもあんまりいかなかったり、学校から直接ひろばに行ってしまうので、図書館にもあんまり来なくなった。そんな中でどうやって子供たちが本と出合って、あとはまあ出合っておもしろいなと思ったらどんどん自分で本を読むようになると思うんですけど、どこかで本っておもしろいな、楽しいなっていうのに出合わせたいと思うんですけども、本当に子供が図書館とかに来ないんですよ、児童館も悩んでいます。そんな状況なので、いろいろ今日考えさせられたことをお聞きいただきたいと思って申し上げました。

図書館 ありがとうございます。

図書館 今おっしゃっていただいた、指定管理だとなかなか話しづらいかなって思っている部分があるとのことですが、当然私たちだけで解決できないこともあります、まずはお話しいただきまして、できることからやってみようと思います。私たちだけで解決できないことについては、光が丘図書館にあげて、こういう意見がありますとお伝えしますので、きちんとお話しできるようにしたいです。

利用者 やっぱり少し違うんですよ、意識の方は前の意識が残っていて、そういうところがあるので。

利用者 今、区の職員はここに入っているんですか。

図書館 指定管理者館には区の職員はいらっしゃいません。

利用者 ひとりもないんですね、そうすると、館長のほうで全部管理なさっているんですね。

図書館 はい、そうです。

利用者 そうすると、いろんな相談事、こちらが今言われたようなことについて、受ける体制はあるんですね。

図書館 せっかくこのような場にこんなに集まってくれますし、そういうお話もしていただいているので、少なくともまず言っていただければ何かしら次のアクションをします。私たちだけで力が及ばずできないこともあります、できませんでした、で終わりではなくて、光が丘図書館に意見をあげますので、お話しください。

利用者 ちょっと私の方からもひと言だけ言わせてください。今のお話ですね、これは行政の問題なんですよ。新しいものを作ってね、施設をどう使うかをですね、そういうことを考えていないんです、職員は。そういうことを考えてやらなきゃダメなんです。それについて区に私も言っときますし、いろいろ区民との協働を進める、協働推進課というのができましてね、その会合があったんですけど、初めはいいと思って作るんでしょうけど、作ってしまうと放っとくんですよ。今のいいお話を伺って、私もそういう関係に言っときますから。これは教育委員会の問題でもあるわけなんですよ。子供のためにやっている事業も、やはり区民の声を聞いてやらなきゃだめですね。そういうように思いました。もう、施設の持ち腐れというか、まったく人がやって来なくなりますからね、子供であろうと大人であろうと、そう思いますね。区議会議員さんもいらっしゃるから、機会があったらそういうこともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

図書館 ありがとうございます。ほかに、発言される方はいらっしゃいますか。

利用者 私はふだん音訳ボランティアで、大泉学園では対面朗読の方でだけお世話になっております。障害者サービス担当は、指定管理者が入ってからすべて光が丘図書館が一括して行うことになってしまったので、ここでは言いたいことがあってもあまり言えません。やはり、言ってもしかたないと思いますし、館長さんもお困りになるだろうと思って。実は、利用者さんが文句言った時には館長さんとてもよく対応してくださって、ああ指定管理者ってこういうところが逆に役人よりはいいかもしれないと思ったんですけども。

今日私が質問したいのは個人的なことで、これは光が丘図書館の事業統括係の方で管理していることなので、ここで言っても仕方がないと思うんですけど、実際私は大泉図書館をふだん使っていて、予約の仕方に関して、ちょっとトラブルがあって自分のパソコンからはうまくいかなくて、ここに来

て職員の方に聞いたら、職員の方も四苦八苦してくださって30分ぐらい付き合ってください、ああでもないこうでもないとやってくださって結局できなくて、ああこういう場合にはやっぱりカウンターに来てやるしかないです、すねということで、その時はそのまま帰って、そのあともう1回同じような状況があって、うまくいかなかったのが結局来なきゃいけなかった。そういう本来は事業統括係の方でコンピューターのプログラミングは全部やっていて、ずっと前に一回クレームをつけた時に、業者さんにプログラムを出してしまったら、予算の関係があってそれを5年とか10年とか使わなきゃいけないので、その次まではそのプログラムは変えられませんかと言われたので、その時も黙って引き下がったんですが、大泉図書館のカウンターで30分も、利用者と職員が付き合ってくれてトラブルになったような時、そういう具体的なトラブルみたいなものを、ここでやっている指定管理者の方々は、光が丘図書館にすぐあげるようにしているんですか。プログラミングなんかは指定管理の問題ではないけれども、そういうことがあった時光が丘図書館にあげるようにしてらっしゃいますか。

図書館 今おっしゃっていただいたプログラミング、これは図書館システムの事だと思いましたが、このようなことだけではなく、大泉図書館で起きたトラブル、苦情などは、当館の日報の中にきちんと記載しています。それを毎月光が丘図書館に報告しています。従ってここで聞いたらそれでおしまいということではありません。当然今もおっしゃったようなシステムのことにしましては、区全体に関わることなので、報告をあげていくようになります。来年1月にシステム更新があります。

利用者 ということはもうおそらくプログラミングは終わっちゃっていますよね。

図書館 変更内容などはもう決まっていると思います。

利用者 いまさら言ってもきっと遅いですね。

図書館 憶測ですけれども、今までいろいろいただいたご意見やご要望などをきちんと踏まえてシステム更新に臨んでいらっしゃると思いますが。すべてのご要望がかなうかどうかは分からないところです。

図書館 ほかにございますか。

利用者 ほかになければ、お時間をあまりとらせたくはないのですが、私がふだん関

わっているのは視覚障害の方たちで、障害者サービス担当は練馬区内の図書館に関しては光が丘が図書館が一括してやるという形になっております。指定管理者が入るまでは、各館に障害者サービス担当の方がいらっしゃいまして、私が音訳を始めた時はすでにそのシステムはなくなっていましたので、その時のことはわからないのですが、実際には地域の障害者の方たちに、特に視覚障害の場合には情報が届かないっていうのがいちばん大きい障害です。例えば東日本大震災が起こった時なんかもですね、対面朗読室に置き去りにされた視覚障害者がおまして、練馬区内ですが、ここではないですけども。そういうような時にどうしようもなくなっちゃうのが視覚障害者なんです。それだけに限らず、肢体不自由にしても何にしても図書館に来て本を読むということがしづらい人たちがいるんです。そういうことは、全国的に見れば、例えば図書館の方から手を差し伸べて、本なんかは郵送で貸出しをして郵送で返却してもらうなんていうのは、当然こちらを運営していらっしゃる方たちは指定管理の中でも図書館業務はベテランの方たちなので、ご存知かと思いますが、実際に地域の利用者に門戸を広げられるのは、その地域図書館だと思うんです。光が丘図書館に任せておいても何も進みません。なので、大泉図書館として、例えば先ほど支援学校に行ってらっしゃるということだったので、私とても希望を持ったんですけども、そういう地域にいる障害者の方たちに、こういうサービスがあります、例えば今対面朗読をここでとてもヘビーに使ってらっしゃる方も、ここの図書館の図書館員と話をしていて、ぼくはもうじき目が見えなくなってこんなに本が好きなんだけど読めなくなっちゃうって話をしたら、「図書館には対面朗読というサービスがありますよ」と、図書館員の方から話を聞いてそれで僕は視覚障害の障害者手帳を取ってここで対面朗読を使うようになったんだという方もいらっしゃるんですね。そういうことを考えると、各図書館の図書館員の障害者に対する意識っていうのはとても必要だと思うのと、図書館として、地域の図書館が地域の障害者に関わりを持つということがとても大きなブレイクスルーになると思うんですけども、そういうような積極的な企画というのはないんでしょうか。というのは、音訳者の方は音訳したいと思っても、利用者さんと直接関われない。それで、教えて下さいと言っても今個人情報

をそうそうオープンにできないということがありまして、図書館を利用して
いる視覚障害者はとても少ないんですね、読みたい人はいるはずなんです。
特にお年を召している方ほど、そういう情報が必要。若い方はみんなパソコ
ンで読んじゃいますからいいんですけれども。そういうようなことをなさる
企画というか、そういうのはありますかということと、できたらそういうこ
とも考えていただきたいなという希望もお伝えしておきたいと思います。

図書館

ありがとうございます。確かに、障害者サービスは、練馬区では光が丘図書
館が一括して行っていますので、なかなか地域館としてそれを越えてやるこ
とは難しい部分もありますが、先ほど申し上げましたように、地域の情報拠
点になるという思いがありますので、それをめざして少しずつでも進んでい
ければと思っているところです。どこに対象となる方がいらっしゃるかな
なかわからないので難しいところですが、例えば、大泉図書館では年に1回
バリアフリー映画会というのを行っています。それは当然視覚障害者の方、
聴覚障害者の方だけでなく、いろんな方に対応した映画を上映することで、
図書館にまず来ていただく、娯楽の部分から入っていただくのがよいのでは
と思って事業を行っています。その時にもやはり広報をどうすればいいのか
というところなので、例えば、チラシを点字バージョンで作って、区の障害
者団体ですとか、近くですと練馬区立大泉障害者地域生活支援センターさく
らといったところにチラシを置かせていただいたりだとかして、私たちが考
え得るところはみな置いていますが、それだけでは充分でないと思っています。
図書館に来ていただければお伝えできることがありますので、その中で
快適に図書館を使っていただけるような方法をいろいろ考えているところ
です。先ほどお話しした「おでかけ図書館」でまちの駅大泉学園に伺った時に、
やはりご高齢で、「近いんだけどちょっと図書館まではもう来られないわ」
っておっしゃる方がいらっしゃったんです。でも、本を読んだり、本の情報
を知ることは好きでとても喜んでいただいたんですが、その時に実際にこち
らから行って見てわかったこととしては、図書館に近いけどなかなか来られ
ない、でも本を借りたいんだけどどうしたらいいのかという時に、まちの駅
大泉学園は団体登録していらっしゃるの、その場所に本を貸出しすること
はできますとか、資格要件はありますが、障害者サービスの一環として郵送

サービスがあることもお伝えすることができました。いろんな方に伝えるためには外に出ていかないと難しい部分もあるのかなということと、やはりここでも広報がネックになってきて、難しいなと考えているところでもあります。さらには、障害者サービスに地域の図書館が関わるにあたって、自分たちが学んでいかないと何をどうしたらいいのかわからない部分がとても多いと思っていますので、図書館職員が様々な研修に参加して学んでいるというところで、まだ一歩踏み出す前の準備段階です。

利用者 大泉のボランティアセンターとかには、そういうチラシとか、そのバリアフリー映画会のとか置いてらっしゃいますか。なんかあんまり見たことがない。あそこもけっこう障害者の方がちょこちょこ関わっているところなので。

図書館 ありがとうございます。前回は大泉のボランティアセンターに置かせていただいています。いろいろ検討しているのですが、考え足りない部分とかもありますので、それは、よく知っている方と話をする中で、もっと広めていけたらと思います。その時はまたご協力よろしくお願いいたします。

利用者 今おっしゃった、障害者サービスは光が丘図書館で行われるようになったわけですね。

利用者 はい。

利用者 光が丘図書館に全部そういうのを集中させたというのはどういうことなんですか。

利用者 要するに、図書館業務という専門職は、地域の図書館に長く司書がいてやるのが本来の図書館の姿だと私は思うんですが、練馬区はそういう考え方をしないで、とにかく安く仕上げよう、というのも区の職員をずっと張りつけて夜遅くまで貸出業務にあたらせるととてもお金かかるわけだから、じゃあそういうお金がかかる部分は指定管理という外部の団体や民間企業におろすわけです。そうすると、練馬区12館のうち9館までが指定管理者館になっていますね。しかもそれが一つの団体や企業ではなくていろんな団体や企業がやれるのですね。大泉図書館はたまたまとても、そういうことを昔からやっているところがやっているんで、割といいんです。最初に始めたのが、住民はみんな反対したんですけど、図書館事業に指定管理はいかがなものかと、それじゃあ試しにやってみましょうということで、南田中図書館に最初の指定

管理が始まり、その時には確かT R Cさんだと思うんですが、非常にいい館長さんと非常にいいスタッフを揃えてやったので、その住民たちは、なんだ、役人がやるよりよっぽどいいじゃないか、当然貸出しの時間も長くなるし、使いやすくなることもあるわけです。指定管理の方がいいってこともあるんです。例えば、今のままで、例えば昔のようにやると図書館に来ている職員が誰かっていうと、区の役人なんです。昨日までは出納係やっていました、図書館から異動したら、今度は土木課に行きますなんて人もころころ3年ぐらいで代わってしまうわけで、住民としてはそういう意味で図書館の専門職じゃない人がそこにいるよりは、指定管理で司書の資格も持っているような人がたくさんいるようなT R Cさんのような人たちが入ってくれた方が話が通じやすかったり、貸出業務に関しても司書に関してもレファレンスに関しても役人がやるよりはいいっていうことで、今は9館になってしまって、その話が出た時に本来だったら残りの3館には区の職員が入っていて、その3館がいろいろと分けて、残りの指定管理のところの管理全体を区としてやっていくという話でそういう形にしたんですが、今は実はそれもなし崩しになっておりまして、2020年には石神井図書館、21年には練馬図書館も指定管理にしようという話が、約束があったにもかかわらず進んでいっている状態になっています。指定管理になってしまったので、指定管理っていうのは5年契約でやるわけです。その人たちは、図書館の業務のやり方に関しては区が決めるわけですから、やり方に関しては口出しできない、そうすると誰かが決定権を持たなきゃいけないので、じゃあ指定管理を入れる時にとにかく児童サービスと障害者サービスの質は絶対に落とさないでください、ということを条件として始めたはずなんですけれども、児童サービスをやってらっしゃる方はご存じだと思うんですが、実際には残った非常勤職員、正規職員じゃない人たちががんばっているような状態なんですけれども、その時に、指定管理の人たちにいちいちそういうことをさせるわけにはいかないから、じゃあ全体の障害者に関する事業、それから児童に関する事業は光が丘図書館が中心館的役割をやっているわけなのでその職員がそういう業務を担いましょうということになって。

利用者 それはお役人がやっているわけなんですか。

利用者 役人がやっています。ですからそこも、音訳者なんかは、ああまた事業統括係長が代わったよ、またいちから説明し直した、みたいな話になってしまって、図書館業務を全然知らない人が来たりします、それは練馬区の状態がそうなので、練馬区民がそれをそういうふうに、それでもいいやと思ってそういうことをやっている状態だと思います。実際にはそういう人たちに票が集まるわけですから。

利用者 障害者の方に関わる人々には、じゃあそういう意味では不便になったっていうことだね。

利用者 まあそうですね。例えば私が入っている大泉のボランティアの音訳のサークルは、大泉の図書館と当然関わりが深くて、もともとやっていた方たちは他のボランティアもたくさんやってらっしゃる方だったので、自分たちで障害者と直接関わっている人もいたので、自分たちで考えて、こういう雑誌を音訳しましょうって言って、それを大泉図書館に音訳ボランティアの方から入れて、置かせてもらったりということをやっていました。でも、今は全部光が丘図書館が統括しているので、光が丘図書館が決めた本を各グループが音訳しているという。

利用者 光が丘図書館がセンター館じゃあないんですけど、センター館的な役割、スペース的にね、あそこ、あの広さしか造れなかったそうです。それでセンター館にはならなくて、センター館的役割、だから、内情はセンター館的なことをやっているんです。

利用者 光が丘図書館はどこがやっているんですか。区がやっている、それとも。

利用者 カウンター業務だけ委託しているんです、それで、そうじゃない業務は職員の方がしています。それで、もちろん、すごい優れた方がいらっしゃったりとかいろいろです、職員の方は。でもね、それを良くないってわけじゃなくて、やっぱりいろいろ問題があります。それから、石神井図書館はかつて職員として仕事をされていたりした方たちが業務をしていて、カウンターだけを委託しているのかな。それから練馬図書館がちょっとまた。ただ、来年度は、そこらへんも全部委託になるんじゃないかっていうことになって、今反対運動している。

利用者 じゃあそういうところは議員さんに任せないとな。

図書館 石神井図書館は、平日は夜間業務、土日祝日は朝から窓口の業務委託をしているんですが、平日の昼間にいらっしゃったら職員の方がやってらっしゃいます。

図書館 時間が今ちょうど11時30分を過ぎましたので、これで、「図書館利用者と大泉図書館長との懇談会」を終了させていただきます。ほかに、これだけは話しておきたいという方いらっしゃいますか。

利用者 後、言いたしっぺとしてすいません。僕は、大泉図書館が指定管理に代わって、周平の会では非常に助かったっていうか、積極的にいろいろ、こっちがアドバイスするとすぐやってくれるとか、今まで役人がやっていたからこう、コーナーを作った時はお役人が相手だったからいくら説明してもわかんないとか、今回は館長を持ち上げるんじゃないんだけど、けっこうそういう意味でわかります。役人と指定管理者の違い。大泉図書館の図書っていう意味では、特に周平に関しては非常に良く、常に勉強しているってところはありますね。だから、いい悪いはちょっと言えないけど、ただ、体制がどんどん変わってきて、練馬区自体が、区長がいらんことしたのかもしれないし、その辺は議員さんをお願いして、もうちょっとそういういろんな人でも行けるような形で。ただ、指定管理のいい悪いは、いろいろあると思います。

図書館 ありがとうございます。

図書館 最後に私からちょっと宣伝をさせていただきたいんですが、皆様のお手元にあります読書週間記念行事で、「すべての子供に本のある暮らしを～出版人が語る児童書の世界」というチラシを置かせていただいています。大人になってからいくら本を読んでほしいと思っても、まずは子供の時によい本に巡り会わなければその先はないと思っています。今の時代、出版状況として本がいっぱい出版されていますが、親御さんたちはどういう本を子供に手渡したらいいか悩んでいらっしゃってわからないので、マスコミで大々的に取り上げられた本がいいのかなって思いがちですが、そうじゃないですよというところで、児童書の出版に関わっていて、鈴木出版の取締役でもあり、編集長をされていらっしゃる方をお招きして講演会を実施する予定となっています。毎年秋の読書週間の記念行事は、文学講演会としまして、今までに実施しましたが、夏目漱石ですとか、谷崎潤一郎といった作家を取り上げた講

演会となっていて大人向けの講演会をしていたんですが、今回はちょっと主旨を変えて、子供に本を手渡す大人の方向けということでこういった講演会を行うのですが、まだ席に余裕がございまして、もしいらっしゃれるようであればここに申込書が付いていますので、申し込んでいただくか、あるいは身近にお子さんをお持ちの親御さんがいらっしゃるようであれば、こういう会があるよということをお伝えいただければありがたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

図書館

では、時間となりましたのでこれで閉会とさせていただきます。引き続き図書館の運営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。本日は、貴重なご意見をいただきありがとうございました。またのご来館をお待ちしております。